

留学の事前指導と事後指導の一環としての英語による大学の授業

山川 健一・平本 哲嗣・松岡 博信・三宅 英文

Integrating University Courses Conducted in English With a Study Abroad Program

Kenichi YAMAKAWA, Satoshi HIRAMOTO, Hironobu MATSUOKA, Hidefumi MIYAKE

要 旨

本論¹の目的は、著者らが勤務する大学の英語英米文学科の約半年間の留学プログラムとその前後で提供される英語による専門教育科目の授業が、カリキュラムの中でどのように統一性をもって効果的に機能しているかを検証し、今後の授業改善に役立てることである。データ収集は、本学科の2年生87名と3年生87名を対象に、留学前、留学中、留学後の授業についてアンケート調査を行った。その結果、留学前の授業の特徴としては、理解力はまだ十分ではないが留学のためのリスニング力向上に寄与していた。留学中の授業では、少人数で教師とのインタラクションが多く、学生のアウトプットが強く要求される中、学生は高い満足度を感じていた。留学後の授業では、意欲はあるが留学時とは異なる専門的内容での英語の授業に苦勞している学生の姿が明らかになった。以上を踏まえ、英語による授業の指導技術向上のための考察を行い、今後の本学科の課題について論じた。

キーワード：留学、英語による授業、留学の事前・事後指導、授業改善、教育課程

1 はじめに 一本論の目的一

近年、特に経済活動のグローバル化に伴い、学校教育においてもグローバル化に対応できる人材の育成が急速に求められてきている。例えば、「大学におけるグローバル人材育成のための指標調査」(平成24年)、「グローバル人材育成推進事業及び大学の世界展開力強化事業」(平成24年)、「これからの大学教育等の在り方について」(平成25年)、「スーパーグローバル大学創成支援」(平成26年)、「スーパーグローバルハイスクール」(平成26年)など、ここ数年だけを見ても数多くの教育的指針が示されている。このことから分かるように、各教育機関において、グローバル人材育成を念頭に置いた教育内容の構築は喫緊の課題となっている²。

本論の目的は、著者らが勤務する大学の英語英米文学科(以下、本学科)の約半年間の留学プログラムと、その前後で提供される英語による専門教育科目の授業がカリキュラムの中でどのよ

¹ 本論は、平成27年3月14日(土)に京都大学吉田キャンパスで開催された「第21回大学教育研究フォーラム」での同名の口頭発表を基に執筆したものである。

² もちろん「グローバル(教育・人材)とは?」という根源的な概念的考察は非常に重要であるが、この議論については別の機会に譲ることとする。

うに統一性をもって効果的に機能しているかを検証し、今後の授業改善に役立てることである。本論では、まずこの留学プログラムと学科のカリキュラムについて概観し、問題の所在を述べる。そして、学科に属する学生に対して行ったアンケートの分析結果から現状の課題を導き出し今後の方向性を探る。

2 安田女子大学文学部英語英米文学科での取り組み ―研究の背景―

2.1 アメリカ派遣6ヵ月留学 (STAYS) の概略

本学科では、平成2年より「アメリカ派遣6ヵ月留学 (Study Abroad for Yasuda Students : 略称STAYS)」というプログラムを開始し、学生は姉妹校提携をしているカリフォルニア州立大学サンバナーディノ校 (CSUSB) に2年次後期に約半年間留学している。これまで学科所属学生 (現在定員110名) のうち約40～60名が毎年留学していたが、平成24年度入学生から制度を「全員留学」に変更し、初年度となる平成25年度は113名の学生が留学した。また、平成26年度のSTAYSから新たにカリフォルニア大学デイヴィス校 (UCD) を加え、派遣先を2つに増やした。STAYSでは学生は現地家庭にホームステイをし、提携大学で履修した授業は現在15単位を上限として本学の卒業単位に一括認定される。

他の留学プログラムでも同様であると考えられるが、留学の成果としては、学生の積極性の向上、英語力の向上 (特にリスニング力)、異質なものに対する寛容性の育成、より明確な将来への目標の設定などが挙げられる³。留学した学生の変容を考えると、STAYSは、上述したグローバル人材の育成にある程度の貢献をしていると本学科では考えている。

2.2 英語による授業の概略

本学科では全員留学に制度を変更するのに伴い、平成24年度入学生からの学科カリキュラムも同時に大幅に変更した。STAYSに関連する変更点としては、①2年後期のSTAYSを軸にして、留学前は基本的英語力育成のための科目を中心に配置、留学後は各自の進路に合わせた専門教育科目を配置、②アメリカ社会・文化やコミュニケーション論に関するネイティブ・スピーカーによる講義形式の複数の授業を留学前に配置して、英語での授業への準備をさらに強化、③平成26年度から、留学のみならず総合的な英語力の向上を意図して、本学科の専門教育科目の大部分を「基本的に英語」⁴で実施、の3点が挙げられる。

2.3 問題の所在

上述したように、本学科では平成24年に全員留学を導入し、カリキュラムを改革した。そして、平成26年にはほとんどの専門教育科目で英語を教授言語として授業を行っている。英語による授業では、留学前の授業では留学の授業を想定した「慣らし」の意味合いがあり、留学後の授業では留学で築いた英語力を基盤にして、さらに専門的な内容に耐えうる英語力の育成という意

³ 山川健一・平本哲嗣・松岡博信・田辺尚子、「グローバル人材育成を目指した大学2年次学科全員留学プログラムSTAYSとその支援体制」, JACET第52回国際大会 特別企画 ポスターセッション「グローバル人材育成のための大学英語教育の取り組み」発表資料, 2013年

⁴ 授業者で多少の差はあるが、学生の理解度や進度によって、部分的に授業中に日本語で補足説明を行ったり、授業者の学生への質問に対する学生の回答を日本語で許可する場合もある。

味合いがある。しかし、本学科で行っている英語を主要言語とした授業は、どの程度留学と連動していると学生に認識されているのであろうか。すなわち、本学科の当初の意図が学生にはどのように実際受け止められているのであろうか。カリキュラム変更から3年目を迎えたのを機に、平素の授業の見直しとカリキュラムの機能点検のためにアンケート調査を行うこととした。

3 アンケート調査

3.1 調査対象者

本学科2年生(126名)と3年生(113名)を対象に、インターネット上で回答できる学内のポータルサイト内のアンケート機能を通して学生に平成27年1月上旬に回答してもらった。回答率は、2年生87名(約69%)と3年生87名(約77%)で合計174名(約73%)であった。ちなみに2年生は回答時は全員留学中であった。調査対象学生は、それぞれ2年生と3年生になってから本学科の英語による授業を受けるようになったことになる。それまでは英語による授業が多少あったものの、基本的には日本語による授業であった。

3.2 方法

アンケートは2年生用と3年生用の2種類(どちらも35問)が用意され、選択形式と記述式の項目から構成される(APPENDIX A, B参照)。質問項目の種類を大まかに記述すると、2年生用は、「留学前の本学での授業」「留学中の授業」「留学中と本学の授業比較」であり、3年生用は、「留学中の授業」「留学後の本学での授業」「留学中と本学の授業比較」である。つまり、2年生には留学前と留学中、3年生には留学中と留学後の授業のつながりについての項目を質問するという構成になっており、この2つのアンケートを総合的に分析することによって、留学とその前後のカリキュラムとの連動の度合いを「推測」することを意図している。

3.3 結果

本節では、2年生と3年生のアンケート結果について、主要なものに限定してそれぞれ項目に分けて報告する。表1～4では主に5段階の選択式の結果を紹介し、記述式の結果は表の説明の箇所で紹介する。

3.3.1 2年生の結果 - 留学前と留学とのつながり -

2年生の調査項目35問のうち、留学前の2年前期の本学科での英語による授業の理解度と受講態度、留学中の授業の理解度と受講態度、2年前期の本学科での英語による授業と留学中の授業とのつながり、本学科と留学中の授業の比較の計7項目の結果を表1と表2に示す。

まず項目8の留学前の授業の理解度においては、23名(約25%)の学生が英語による授業に困難を感じている。特に、「英文法の授業を英語するのは不適である」「教師の英語の聞き取りやすさに差がある」などの意見が目立った。その一方で、特に「留学の準備となってよい」という理由等で36名(約40%)の学生が英語による授業に効果を感じていた。また、留学前の英語による授業は、理解度よりも受講態度(項目10)において肯定的反応が多い。これは、英語による授業を受けるのは大変であるが、「留学を意識して集中して積極的に受講している」という意見に見られるように、何とか授業についていこうとする意志の表れであると判断できる。

次に留学中の授業に関する項目18と20であるが、アンケートの実施時期が留学の終盤ということもあり、どちらの項目においても肯定的反応が多かった⁵。特に「リスニング力とスピーキング力の向上」をあげる学生が多く、留学の授業では、約9割の学生が自身の理解度の向上をあげていた。留学中の授業は、20名以下の少人数のクラス編成であり、教師との英語によるインタラクションが多く、常に発言を求められる環境にあったと学生は述べている。

次に項目14であるが、52名（約60%）の学生が留学前の2年前期の英語による授業と留学とのつながりについて、「アメリカでは英語のみの授業なので慣れるという意味で役立った」など肯定的に感じていたようである。その一方、16名（約18%）の学生は、「日本人教師の話す英語はネイティブ・スピーカーとは異なる」や「日本での英語による授業は聞く一方である」などの理由で、つながりの効果をあまり認めていなかった。

表2は留学前の授業と留学時の授業の理解度と受講態度を直接的に比較した項目28と30の結果を示している。理解度については60名（約70%）の学生が、そして受講態度については82名（約95%）の学生が、留学時の方が良かったと回答している⁶。

表1. 2年生への質問項目の回答1（計87名）

項目番号	質問項目	とても そう思う	ある程度 そう思う	わから ない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない
8	「2年前期」の本学科での「英語で行われる授業」のあなたの理解度は良くなりましたか。	3	33	28	22	1
10	「2年前期」の本学科での「英語で行われる授業」のあなたの受講態度は良くなりましたか。	4	53	21	9	0
18	STAYSでのあなたの授業の理解度は、留学期間の最初と最後を比較すると良くなりましたか。	28	53	4	2	0
20	STAYSでのあなたの授業態度は、留学期間の最初と最後を比較すると良くなりましたか。	11	36	31	7	2
14	「2年前期」の本学科での「英語で行われる授業」は、STAYSとの接続において考えた場合、あなたの留学のための英語力の育成に貢献していると思いますか。	5	47	19	14	2

表2. 2年生への質問項目の回答2（計87名）

項目番号	質問項目	本学科 2年前期	STAYS	わから ない
28	「2年前期」の本学科での「英語で行われる授業」とSTAYSの授業を比較して、あなたの平均的な理解度はどちらが高いと思いますか。	7	60	20
30	「2年前期」の本学科での「英語で行われる授業」とSTAYSの授業を比較して、あなたの平均的な受講態度はどちらが積極的だと思いますか。	1	82	4

3.3.2 3年生の結果 —留学と留学後のつながり—

3年生の調査項目35問のうち、留学中の授業の理解度と受講態度、3年前後期の本学科での英

⁵ 項目20で「わからない」を選択した学生が、31名（約36%）いたが、これは「自分は最初から積極的に受講しているので、どれにも該当しない」という意味でこの選択肢を選んだものが多いことが記述項目から判明した。受講態度においても理解度と同様に約9割の学生が肯定的評価をしている。

⁶ 理解度については、20名（約23%）の学生が「わからない」と回答しているが、これは「比較するのが困難」という慎重な意見が反映されていると記述項目の回答から解釈できる。

語による授業の理解度と受講態度、留学中と留学後の授業とのつながり、留学中の授業と留学後の本学科の授業の比較の計7項目の結果を以下表3と表4に示す。

まず表3の項目1と3であるが、これは上述の2年生の表1の項目18と20とほぼ同じ結果となっており、ほとんどの学生が留学中の授業での理解度と受講態度の向上をあげていた。一方、留学後の本学科での英語による授業の理解度と受講態度であるが、項目17の理解度の方では、26名(約30%)の学生が否定的な反応を示している。これは3年生になって授業の難易度が上がったためであり、実際「内容が専門的なので英語での授業は難しい」という意見が多かった。また、「わからない」が24名(約28%)いたが、この理由としては、「英語による授業をそれほど履修していない」という意見が主であった。項目19の受講態度の方は、「わからない」が32名(約37%)いたが、これは「受講態度と教授言語は関係ない」という意見が多く、約85%の学生は自身の受講態度は良いと判断しているようである。これらのことから、留学後は授業内容に対する理解度は下がっているものの、真剣な受講態度は継続させようとしている学生の姿が想像できる。

次に、項目24の留学時の授業と留学後の本学科での英語による授業のつながりについての質問の結果である。38名(約44%)の学生は、「留学後も英語に触れる機会になっている」や「自分の英語力がまだ伸びていると感じる」と述べ、つながりを積極的に認めている。一方、27名(約30%)の学生は「内容が難しい」「授業形式が一方通行で受け身である」と述べ、否定的な解釈をしている。

表4の留学時と留学後の授業の理解度と受講態度の直接の比較であるが、これはどちらも6～7割の学生が留学時の授業の方を高く評価している。

表3. 3年生への質問項目の回答1(抜粋)(計87名)

項目番号	質問項目	とても そう思う	ある程度 そう思う	わから ない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない
1	STAYSでのあなたの授業の理解度は、留学期間の最初と最後を比較すると良くなりましたか。	19	61	1	4	2
3	STAYSでのあなたの授業態度は、留学期間の最初と最後を比較すると良くなりましたか。	12	39	21	12	3
17	「3年前後期」の本学科での「英語で行われる授業」のあなたの理解度は良くなりましたか。	3	34	24	25	1
19	「3年前後期」の本学科での「英語で行われる授業」のあなたの受講態度は良くなりましたか。	4	38	32	11	2
24	「3年前期」の本学科での「英語で行われる授業」は、STAYSとの接続において考えた場合、あなたの留学後の英語力の維持向上に貢献していると思いますか。	6	32	22	20	7

表4. 3年生への質問項目の回答2(抜粋)(計87名)

項目番号	質問項目	本学科 3年前期	STAYS	わから ない
28	「3年前後期」の本学科での「英語で行われる授業」とSTAYSの授業を比較して、あなたの平均的な理解度はどちらが高いと思いますか。	18	51	18
30	「3年前後期」の本学科での「英語で行われる授業」とSTAYSの授業を比較して、あなたの平均的な受講態度はどちらが積極的だと思いますか。	8	60	19

アンケートに回答した3年生はこの時点で留学から帰国して約1年が経っている状態である。そこで、表3と4には掲載されていないが、項目34の「留学時と今現在の自分の英語力を比較し

て、どのような変化があると思いますか。」という記述式の質問の結果から、3年生の英語力の自己評価を見てみることにする。まず、「良くなった」と判断している分野としては、「リスニング力」「TOEICの得点」「文法力・語彙力」「ネイティブ・スピーカーに英語で話しかける際の心理的抵抗の減少」をあげている。一方、「悪くなった」と判断している分野としては、「使う機会が減った」「自分が受講している授業は日本語の授業が多い」「リスニング力」「英語によるレッスンの反応力」をあげている。

3.3.3 結果の要約

上述した2年生と3年生へのアンケートの結果を同一の学習者集団への2年間の継続調査と解釈して要点を以下にまとめる。

まず、教授言語が日本語中心であった1年次から英語による授業が主となった2年前期の特徴としては、「英語の授業と格闘をしている」「理解はまだ十分でないが、学習意欲は高い」「留学との関連を強く意識している」「リスニング力向上を実感している」などがあげられる。次に、留学中（2年後期）の特徴として、「少人数で、教師とのインタラクションが多い授業」「学生のアウトプットが強く要求される」「日本での英語による授業との違いを感じている」などがあげられる。次に留学後の3年前後期では、「英語力の低下を懸念している」「英語による授業の数がそもそも少ない」「意欲はあるが専門的内容での英語の授業に苦勞している」「留学中の技能中心の授業と帰国後の講義・理論中心の授業の違いを実感している」などがあげられる。

3.4 考察

第3節ではアンケート結果について詳細に述べてきたが、本節では留学の「事前指導・事後指導としての英語による授業」の観点から以下2点に絞って考察することとする。

3.4.1 英語による授業の方法論

表1の項目18と表3の項目1からわかるように、多くの学生が留学中の授業の理解度の向上を実感していた。その理由として、提携大学の授業で見られる工夫をあげていたものが多かった。もちろん、それらの授業が少人数制であったという大きな要因もあるが、日本で英語による授業を行うにあたり、留学先の教員が英語を母語としない留学生に英語のみを用いて常に授業を行っている中で用いられている方法論について理解しておくことは、本学科の授業改善にも益になるであろう。

アンケートの記述項目（2年生用の項目22と33、3年生用の項目5と33）から、留学先の授業の特徴について以下の5点にまとめることができる。

① 学習者中心の授業づくり

全員が授業に参加できるように、個別に話しかけたり、全員の様子を細かく観察する。

② ICTの活用

スライド、動画、SNS、YouTubeなどを活用する。

③ 学習者を細かく評価する

授業中に学生に多くの質問をして学生の理解度を細かくモニターしたり、頻繁に小テストを行う。

④ 発話上の工夫

教師が簡単な単語や表現に言い換えて英語を話したり、発話速度を調整する。

⑤ アウトプット志向

表現を目指した宿題やエッセイやプレゼンテーションなどの課題が非常に多い。

上述したように、本学科での授業は「教師から学生への一方通行である」⁷や「教師の英語がわかりにくい」との指摘があった。また、留学中の方が圧倒的に宿題の量、特にアウトプット志向の課題量が多く、授業での学生の発表や教師からのフィードバックに繋がる宿題が多かったということであった。このことから、本学科が上記5点についての指導技術の向上にさらに取り組む価値はあろう⁸。

3.4.2 留学後の本学科での授業履修数

結果を分析した際に著者らにとって意外であったのは、3年生の回答の中に「そもそも英語での授業をあまり受けていない」という学生が多く存在したことである。このことから、アンケート項目内の「履修科目の数」に関する結果を考察してみる。

アンケート対象学生のうち、2年生は留学前の2年前期では平均17.4コマ履修しているのに対して、3年生は留学後の3年後期では平均10.2コマに減少していた。また、他学科と共通で受講する（すなわち英語が教授言語ではない）免許資格科目は3年次から本格的に始まることを考慮すると、本学科の専門教育科目の受講自体が留学後は少なくなっていることが推察される。加えて、本学科の教育課程では、留学後の必修科目（ゼミと卒業論文を除く）が3科目しかなく、残りはすべて選択科目である。留学までに多くの単位を既に履修し、留学後は免許資格科目が中心になる学生にとっては、やはり英語による専門教育科目の数は少なくなる（または少なくすることができ）ことが予想される。また、時間割の組み方次第では毎日大学に来る必要がなくなる場合もある。学生が実際にどの授業をどの時点で履修しているのかについて細かくケース・スタディを行わないと断言はできないが、今後、教育課程を見直す際は、必修科目や免許資格科目の配置を再考し、留学後も英語による授業が基盤となるような時間割を提供できるようにする必要があろう。

4 結論 —今後の課題—

本論では、本学科における留学前後の英語による授業が留学とどのように連携して効果的に機能しているのかを調べるために行ったアンケート調査の結果を報告した。本学科の英語による授業には一定の効果がみられるものの、多くの課題があることも判明した。それらの課題を以下4つの側面にまとめることによって本論の結論としたい。

① 日本人教員の課題

理解しやすい発音などの英語力の向上や、簡単な英語で説明する指導能力を向上させる必要がある。

⁷ 「日本での授業は一方通行」という現象は、教員の指導技術の面のみならず、日本と留学先の1クラスあたりの受講人数の違いに起因するところも大きい。

⁸ ただし、すでに指摘したように、留学中の授業科目は主に語学的強化の側面が強いものであったが、留学後は英語学、英米文学および英語教育学などの内容的側面に焦点を当てたものが多いという相違点があるので、単純に模倣すればよいというものではない。

② 教育的技術の向上

指名、ペア・グループ活動、ICTの活用、宿題の量的充実などの細かい教育的技術の向上を図る必要がある。また、内容科目としての英語による授業の際は、技能科目との相違をよく理解し、学生の理解を補助するためのICT等の活用ならびに適切な日本語の使用の研究が必要である。

③ 教育課程上の課題

英語による授業を3年間確実に提供できるように配置すべきである。また、英語による授業をするのに適切なクラスサイズになるような開講科目数にする必要がある。

④ 学生の教育課程への理解の向上

技能科目と専門科目の違いなど、カリキュラム全体の構成に対する理解を深める必要がある。また、留学後の英語力維持のための手段としての授業の活用（履修科目数の増加など）への意識を高める必要がある。

謝 辞

本研究の実施にあたっては、安田女子大学の「平成26年度教育改革への取組」の研究助成（「海外研修の効果を最大にするための事前指導・教育に関する取組み」）を受けた。

APPENDIX A

2年生用アンケート

1 あなたはどちらのキャンパスに留学をしていますか。(2択)

*** 留学前の安田での授業**

- 2 あなたは「2年前期」は安田では週に何コマ授業を履修登録していましたか。
- 3 上記の「2年前期」のコマのうち、「日本人やネイティブの先生が(基本的に)英語で行う授業(以下「英語で行われる授業」)」は何コマありましたか。
- 4 「2年前期」の「英語で行われる授業」のコマのうち、日本人の先生が行う授業は何コマありますか。
- 5 あなたは「2年前期」に安田の授業を履修する際、各授業のシラバスを閲覧して検討したと思いますか。(5択)
- 6 質問5の回答の理由を教えてください。
- 7 あなたは安田で「2年前期」に履修した「選択」の授業を決める際、どのような理由を最も重視して決めましたか。(4択)
- 8 「2年前期」の安田での「英語で行われる授業」のあなたの理解度は良くなりましたか。
- 9 質問8の回答の理由を教えてください。
- 10 「2年前期」の安田での「英語で行われる授業」のあなたの受講態度は良くなりましたか。(5択)
- 11 質問10の回答の理由を教えてください。
- 12 「2年前期」の時、自分の英語力の向上のために何を必要だと考えていましたか。
- 13 「2年前期」の時、自分の英語力の向上のために実際どのようなことをしていましたか。
- 14 「2年前期」の安田での「英語で行われる授業」は、STAYSとの接続において考えた場合、あなたの留学のための英語力の育成に貢献していると思いますか。(5択)
- 15 質問14の回答の理由を「具体的に」教えてください。
- 16 STAYSとの接続がスムーズになるように、また留学のための英語力に貢献するように、今後の安田での「留学前(1年次と2年前期)」の「英語で行われる授業」に対してどのような要望がありますか。
- 17 あなたの「留学前」のTOEICの得点を教えてください(3ケタの数字のみを半角で。「点」は不要です)。

*** STAYS時**

- 18 STAYSでのあなたの授業の理解度は、留学期間の最初と最後を比較すると良くなりましたか。
- 19 質問18の回答の理由を教えてください。
- 20 STAYSでのあなたの授業態度は、留学期間の最初と最後を比較すると良くなりましたか。(5択)
- 21 質問20の回答の理由を教えてください。
- 22 STAYSで、授業をわかりやすくするために現地の教員のどのような工夫が見て取れましたか。
- 23 STAYSの授業で、どのような時に困ることがありましたか。
- 24 STAYSの授業で、宿題はどのようなタイプの宿題が多かったですか。
- 25 留学中、授業以外で自分の英語力向上のためにどのようなことをしていましたか。
- 26 留学を振り返って、自分の英語力向上のために、留学中に「現地で」もってしておけばよかったと思うことは何ですか。
- 27 留学を振り返って、自分の英語力向上のために、留学前に「日本で」もってしておけばよかったと思うことは何ですか。(新規:記述)

*** STAYSと帰国後の安田の授業比較**

- 28 「2年前期」の安田での「英語で行われる授業」とSTAYSの授業を比較して、あなたの平均的な理解度はどちらが高いと思いますか。(3択)
- 29 質問28の回答の理由を教えてください。
- 30 「2年前期」の安田での「英語で行われる授業」とSTAYSの授業を比較して、あなたの平均的な受講態度はどちらが積極的だと思いますか。(3択)
- 31 質問30の回答の理由を教えてください。
- 32 「2年前期」の安田での「英語で行われる授業」とSTAYSの授業を比較して、1つの授業あたりの平均的な宿題の量はどちらが多いと思いますか。(3択)
- 33 STAYSの授業と「2年前期」の「英語で行われる授業」を比較して、特に教員の授業運営に関して、どのような違いがあると思いますか。
- 34 留学前と今現在の自分の英語力を比較して、どのような変化があると思いますか。
- 35 質問34の回答の理由を教えてください。

APPENDIX B

3年生用アンケート

* STAYS時

- 1 STAYSでのあなたの授業の理解度は、留学期間の最初と最後を比較すると良くなりましたか。(5択)
- 2 質問1の回答の理由を教えてください。
- 3 STAYSでのあなたの授業態度は、留学期間の最初と最後を比較すると良くなりましたか。(5択)
- 4 質問3の回答の理由を教えてください。
- 5 STAYSで、授業をわかりやすくするために現地の教員のどのような工夫が見て取れましたか。
- 6 STAYSの授業で、どのような時に困ることがありましたか。
- 7 STAYSの授業で、宿題はどのようなタイプの宿題が多かったですか。
- 8 留学中、授業以外で自分の英語力向上のためにどのようなことをしていましたか。
- 9 留学を振り返って、自分の英語力向上のために現地でもっとしておけばよかったと思うことは何ですか。
- 10 あなたのSTAYS終了時のTOEIC(2月に現地で受検したもの)の得点を教えてください。

* 現在の安田

- 11 あなたは今年度「後期」は週に何コマ授業を履修登録していますか。
- 12 上記の「後期」のコマのうち、「基本的に英語で行われる授業(以下「英語で行われる授業」)」は何コマありますか。
- 13 「後期」の「英語で行われる授業」のコマのうち、日本人の先生が行う授業は何コマありますか(数字のみを半角で)。
- 14 あなたは「3年前後期」に履修する授業を決めた際、各授業のシラバスを閲覧して検討したと思いますか。(5択)
- 15 質問14の回答の理由を教えてください。
- 16 あなたは安田で「3年前後期」に履修した「選択」の授業を決める際、どのような理由を最も重視して決めましたか。(4択)
- 17 「3年前後期」の「英語で行われる授業」のあなたの理解度は良くなりましたか。(5択)
- 18 質問17の回答の理由を教えてください。
- 19 「3年前後期」の「英語で行われる授業」のあなたの受講態度は良くなりましたか。(5択)
- 20 質問19の回答の理由を教えてください。
- 21 「今」現在、自分の英語力の向上のために何を必要だと考えていますか。
- 22 「今」現在、自分の英語力の向上のために実際どのようなことをしていますか。
- 23 STAYSで履修した授業のうち、どの授業が、安田で現在行われている「英語で行われる授業」の理解に役立っていますか。
- 24 「3年前期」の安田での「英語で行われる授業」は、STAYSとの接続において考えた場合、あなたの留学後の英語力の維持向上に貢献していると思いますか。(5択)
- 25 質問24の回答の理由を「具体的に」教えてください。
- 26 STAYS帰国後に英語力をさらに向上させるために、または、留学で学習した内容をさらに発展させるために、今後の安田での「英語で行われる授業」に対してどのような要望がありますか。
- 27 あなたの一番最近のTOEICの得点を教えてください。

* STAYSと帰国後の安田の授業比較

- 28 「3年前後期」の安田での「英語で行われる授業」とSTAYSの授業を比較して、あなたの平均的な理解度はどちらが高いと思いますか。(3択)
- 29 質問28の回答の理由を教えてください。
- 30 「3年前後期」の安田での「英語で行われる授業」とSTAYSの授業を比較して、あなたの平均的な受講態度はどちらが積極的だと思いますか。(3択)
- 31 質問30の回答の理由を教えてください。
- 32 「3年前後期」の安田での「英語で行われる授業」とSTAYSの授業を比較して、1つの授業あたりの平均的な宿題の量はどちらが多いと思いますか。(3択)
- 33 STAYSの授業と「3年前後期」の「英語で行われる授業」を比較して、特に教員の授業運営に関して、どのような違いがあると思いますか。
- 34 留学時と今現在の自分の英語力を比較して、どのような変化があると思いますか。
- 35 質問34の回答の理由を教えてください。